

ひとしずくの森

第一二三回森林の学校開校しました

七月三十一日、八月一日の二日間、とても美しいやまがた森林活動支援センター（理事長 織田洋典氏）の指導の下、一七名の参加者を得て第一二三回森林の学校が開催されました。

今回は「森の中はエコパラダイス」と題して、ビニルやプラスチックなど石油製品を減らし、環境にやさしい生活のために、森の資源をみんなですっきり体験しようというものです。

最初に、三森さんから紙芝居でエコな生活について説明を受けた後、森の中に入って木や木の葉などが生活にどのように活かせるのかを学びました。

子供たちは、森の中でセミやカブトムシなど夏の生き物に触れたり、クマがスギの皮を剥いだ後を観察。むかし糸を取ったアカンなどを見て回りました。また、高学年チームは炭窯も回って、木が燃料として使われていたことも学びました。

昼食を摂る午後からは、木の枝からネームプレートや鉛筆づくり、木の葉の模様を活かしたエコバックづくりを、それぞれのコーナーに分かれて体験しました。また、タコジイの指導でスゲの縄ないも体験。ネームプレートを通してメダルにしました。特に女子にはマイバックづくりが好評でしたし、男子も慣れない縄ないに果敢に挑戦。みんなは思い思いに世界に一つだけの作品を作っていました。

今回は猛暑やコロナの対策のため、野外シェラターを会場にしました。初日は三三度を超える猛暑でしたが、風があり快適でしたし、二日目は曇天に助



けられました。ただ、初日はクラフトごとのブースが渋滞。熱中するあまり給水不足が課題となりました。そこで、二日目は各班をローテーションしたり、給水時

間を設けて対処しました。事故やけが等も無く実施できたのは、猛暑の中、奮闘されたNPO美しいやまがた森林活動支援センターとインタープリターの皆さんの協力のお陰と感謝するところです。

ちびっこ集まれ！

8/8夏休み源流塾

夏休み源流塾では、魚釣り、イスづくり、花炭づくり、サルコムシとりを行いました。楽しい思い出がたくさんできました。



☆ごめんどしとごえ☆ ニューフェースのご紹介

古口 敏さん（冒険担当）

長井市（森）です。

☆源流の森では

冒険の森担当です。

☆好きなもの（事）は

二十年前ぶりに始めたゴルフに熱中

☆得意なことは

経験上、指導業務は得意です。

☆源流の森でやりたいこと

一人でも多くのお客様と交流したいです。

☆お客様へのメッセージ

現在、冒険の森指導員として日々勉強中です。皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。



源流の森所内研修の開催 ～冒険の森研修～

源流の森では、常設プログラムごとにベテランのインタープリターもいれば、未経験の人もいます。特に経験の浅い方は、事務所から要請があっても知識や経験の不足からサポートに入りにくい現状でした。また、専門外のジャンルについて経験を積むことは、自身のスキルアップを図り、活動の幅を広げることにつながります。そこで、源流の森では、今年度からインタープリテーション協会と協力して常設プログラムの所内研修を行うこととなりました。

手始めに冒険の森の研修を行いました。斎藤和好きの指導の下、七月四日には各人がプロジェクトアドベンチャーを実際に体験しながらサポートのノウハウを学び、二五日には参加者を2班に分け、実際にお客様を入れてサポートを体験しました。

参加者からは、冒険の森での活動に自信が付いたとの声。お客さんも積極的に高所に挑戦。特に女の子は度胸良く、安全に体験を楽しめました。

源流の森では、今後も森林案内や陶芸・木工クラフトについても所内研修を進め、常設プログラムの実施体制の強化と、インタープリターのスキルアップを進めていきます。



所長イッシーのネホダレ

暑中おのみい申し上げます。エゾハルゼミの声が消え、梅雨が明けると、アブラゼミとヒグラシの合唱がやって来ました。朝と昼の園内巡回も、噴き出す汗をぬぐいながら、施設の不具合はないか、お客様は安全かと、心を砕く毎日です。（でも、ヤセないのはどうしてか・・・）

毎週末、遠路サポートに駆けつけてくれるインタープリターの皆さんには、いつもご苦労をおかけしております。また、夏休み期間は定期的な休館日がないので、常設プログラム担当も、施設整備担当も代休を調整して勤務しているうちに曜日の感覚が無くなってきました。「えっ、あなた今日は休みじゃなかった？」なんて家族から言われることも・・・

夏休み真っ只中、園内にも朝早くから虫取りの家族やバイク、車の休憩が増えました。中津川の短い夏を楽しんでもらえるよう、できることからやっていきたいと考えています。（ネホダレとは、置賜語で寝言の意味）

